

# 日常の魅力

13l @hamo\_nik

現代の日本人で漫画、アニメまたはライトノベル<sup>\*1</sup>といった作品を見たことのない人ははたしてどれくらいいるでしょうか？少なくとも今の10代～20代の日本人でこれに当てはまる人はごく少数に限られるでしょう。アニメで例を挙げるならば、国民的アニメである「サザエさん」や今でも根強い人気を誇る「プリキュア」<sup>\*2</sup>、などなど日本には数多くのアニメや漫画、ライトノベルの作品が存在します。今回はその中でも日常系と呼ばれるジャンルについての説明と日常系の作品のレビューを書きたいと思います。

まず、日常系とはどのようなジャンルなのか？広義的には日常系とは登場キャラクターの日常生活や、やり取りを描いた作品だと言われています。たとえば、世間で一大ブームとなった「けいおん！」<sup>\*3</sup>や国民的作品である「ちびまる子ちゃん」も日常系の作品として挙げることができます。また、主な登場人物が小学生～高校生といったことが多いことも特徴として挙げるできます。

さらに、日常系作品は2つのタイプに分けることができます。1つは主にギャグを重視している作品、もう1つはキャラクター同士の他愛のないやり取りや作中の世界の雰囲気重視している作品です。漫画を例に挙げると、前者は「生徒会役員共<sup>\*4</sup>」「男子高校生の日常<sup>\*5</sup>」、後者は「ひだまりスケッチ<sup>\*6</sup>」「らき☆すた<sup>\*7</sup>」などが挙げられます。

---

**注釈** ※作者敬称は省略しました。

<sup>\*1</sup> 一般的には美少女キャラクターや漫画のイラストや挿絵を多用し、キャラクター主体で作中での世界観が固定されている小説のことを指します。

<sup>\*2</sup> 2004年の「ふたりはプリキュア」から続いている女兒向けアニメシリーズのこと。そのキャラクターや内容から大人でも楽しめる作品となっています。

<sup>\*3</sup> かきふらいによる四コマ漫画作品、およびそれを原作としたアニメ作品のこと。2009年には第一期が、2010年には第二期が放送され数多くのファンを得ました。

日常系作品のよい点としては、まずキャラクターの人物像を把握していれば、ある1つのストーリーだけを読んでもその内容が理解しやすい場合が多いということが挙げられます。これは、日常生活という括りの中で、それぞれの話に深い関連性があまりないからだと考えられます。また、ストーリー重視の作品と比較して深い恋愛要素やシリアスな展開があまり含まれないため、日頃のストレスを解消するために見るといふ人もいます。

一方、日常系作品の問題点としてはストーリー性がない、または弱いことが挙げられます。これは、日常系作品の性質というものを考えると仕方のないことではあります。ストーリーを重視する人にとってはつまらない作品とみなされてしまうでしょう。また、近年では日常系の作品の中でも安易な萌えを量産する作品が増加しているために、日常系作品＝萌え作品というレッテルを貼られてしまうことも問題として考えられます。

しかし、僕は日常系というジャンルが好きです。バトルものや SF も好きですが、日常系作品の空気や日常的なギャグ、さらに没個性的なキャラクターでもそのキャラが他のキャラとコミュニケーションを交わすことでその個性を感じることができる点に魅力を感じるのです。

---

\*4 週刊少年マガジンで連載中の氏家ト全による四コマ漫画作品。桜才学園生徒会の人間が繰り広げる学園コメディ。下ネタが多いのにエロくない、不思議です！

\*5 ガンガン ONLINE で連載されていた山内泰延による四コマ漫画作品。男子高校生の日常を描くタバタコメディです。

\*6 まんがタイムきららキャラットで連載中の蒼樹うめによる四コマ漫画作品。ひだまり荘の住人が繰り広げる楽しく賑やかな日常が描かれています。

\*7 コンプティークで連載中の美水かがみによる四コマ漫画作品。陵桜学園高等部の女子高生の日常生活がゆるゆると描かれた作品です。埼玉県の鷲宮神社はらき☆すたの聖地<sup>\*8</sup>として有名です。

\*8 アニメや漫画に縁のある土地のこと。その愛好家が実際に聖地を訪れることを聖地巡礼といい、多くの自治体が町おこしの一環として彼ら呼びこむべく様々な取り組みを行っています。

次に、僕が見た日常系作品についてのレビューを書こうと思います。対象は漫画作品、作品は「ゆるゆり」「スケッチブック」「キメらるクラブ」「坂本ですが？」の計4作品です。

## ○ ゆるゆり

**あらすじ**：主人公の赤座あかりと彼女の幼なじみの歳納京子と船見結衣は元茶道部の部室を不当に占拠し、ごらく部と称した部活を行っていました。そこに茶道部に入部することを希望していた吉川ちなつも加わり、時には生徒会もの女の子達も加わりながら今日もゆるい日常生活が繰り広げられるのです。

**レビュー**：タイトルにも含まれる通り百合要素を全面に押し出した作品です。とは言え内容的には軽い百合なので、普通の漫画としても読めます。そしてキャラの一人一人がかわいいです。女の子達がイチャイチャしてる所を見たい人におすすめです。

## ○ スケッチブック

**あらすじ**：高校に入って半ば強制的に美術部に入部することになった梶原空。今日も彼女やその他の美術部員達のまったりした日常が繰り広げられます。

**レビュー**：脱力系四コマ漫画。日常がふんわりとしたタッチで描かれています。実際に読んでみると身近な笑いやシュールなネタに思わずクスリとさせられました。美術ネタは少なめ。個人的には日常系のまさに日常を描いた作品だと思います。ほのぼのさを求めるならおすすめです。

## ○ キメらるクラブ

**あらすじ**：生徒会から部活動の合併を命じられた天文部の部長阿久野真緒。その合併先のオカルト研究部の部長丘路子、捏造部の部長蛭所あい子、探求部の部長松戸さえの4人を中心としたドタバタ学園コメディが始まります。

**レビュー**：ドタバタコメディ。基本的には真緒以外の人間がボケて、真緒がつつこむといった構図です。効果的にシュールな表現が用いられることで読者の笑いを誘っています。路子の普段の厨二病<sup>\*9</sup>を発症している時とうろたえた時に素に戻った時とのギャップがかわいいです。

○坂本ですが？

**あらすじ**：入学早々、クラスのだけではなく学校中の注目を集める一人の男子生徒がいました。彼の名前は坂本。そんな坂本は今日もスタイリッシュかつクールに学校生活を送ります。

**レビュー**：普通の人には誰も真似できない、というか真似しないようなことを坂本は平然とやるのでクールな行動なのにかえってシュールさを際立たせています。坂本を取り囲む人たちの反応もかえって作品をシュールにする、そんな笑いがいっぱい詰まった作品です。

以上が、日常系漫画作品のレビューでした。ここでは紹介しきれなかった日常系作品はいっぱい存在します。もちろん、無理に日常系作品を見るとはいけません。しかしこの先、日常系作品に触れる機会があってこのレビューが参考になったら、僕としては嬉しい限りです。最後にフランスの写真家の名言を借りて文章を締めたいと思います。

**充実した一時間は忘却と不注意の数世紀より価値がある。**

—イリナ・イオネスコ

---

<sup>\*9</sup> 別名中二病。中学二年生で発症することの多い思春期特有の思想や行動のことを揶揄したネットスラング。症状としては自分を特別な存在だと思ったり、カルト的な存在を崇拝したりと自己顕示欲や自己陶醉が表面化した行動や思想が挙げられます。